

2022年度福島県医療福祉機器産業協議会 総会

2022年4月21日(木)10:00~12:00

2022年度協議会役員

【任期 2021年4月1日～2023年3月31日】

役職	氏名	所属・役職
会長	林 由美子	タカラ印刷株式会社 取締役相談役
副会長	高山 慎也	株式会社アリーナ 代表取締役社長
会計担当幹事	松崎 辰夫	株式会社品川通信計装サービス 取締役社長
会計担当幹事	神田 雅彦	神田産業株式会社 代表取締役
幹事	上野 邦香	東成イービー東北株式会社 代表取締役社長
幹事	金井しのぶ	株式会社マイステック 代表取締役
幹事	佐々木 宏臣	福島県商工労働部医療関連産業集積推進室 室長
幹事	高橋 輝夫	日本ピストンリング株式会社 代表取締役社長
幹事	渡邊 陽一郎	株式会社朝日ラバー 代表取締役社長
幹事	佐藤 伊知郎	株式会社ケイ・エス・エム 常務取締役
幹事	小林 利彰	一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構 副理事長
監事	泉田 秀昭	アルファ電子株式会社 営業部 品質技術部 部長
監事	中野 泰三郎	株式会社NAKANO 専務取締役

※監事任期は2020年4月1日～2023年3月31日

総会 次第

第一部 総会

- (1) 第一号議案 2021年度の協議会活動・決算報告
- (2) 第二号議案 2022年度の事業計画及び予算
- (3) 分科会活動紹介
- (4) その他連絡事項

第二部 セミナー「医療機器開発の実際」(仮題)

講師

泉工医科工業株式会社 執行役員 俣野賢太 様

国際医療看護福祉大学校 臨床工学技士科

学科長 塩田 博幸 様

進行

ふくしま医療機器開発支援センター 石橋 毅

○第一号議案 活動報告 総会

○開催日

2021年6月16日(水)オンライン開催

○参加者

46会員、欠席63会員

(うち委任状提出27会員)

○実施内容

2020年活動・収支報告

2021年度の事業計画・予算

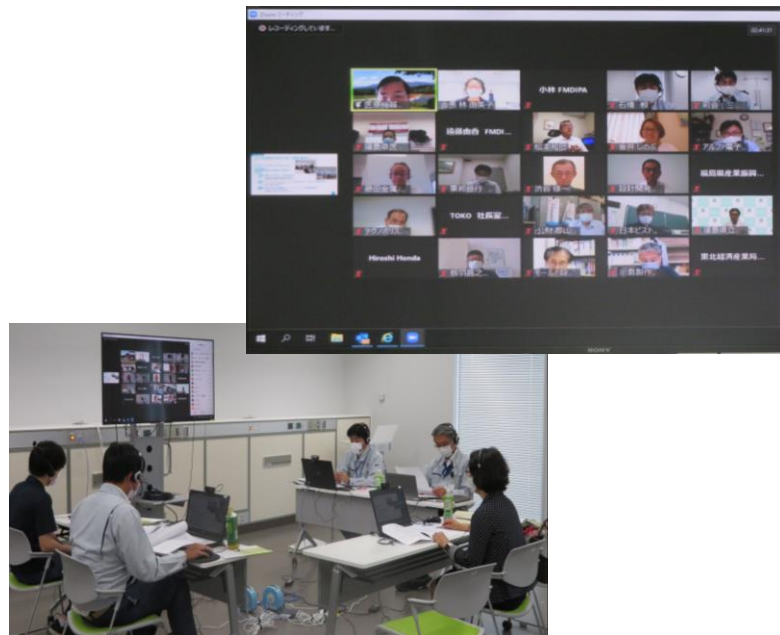
規約の改正

新規会員の紹介

分科会の活動報告

医療手技トレーニングモデル開発分科会設置(朝日ラバー)

ご講演「外科医学教育の現状と課題」 福島県立医大 木村先生



○第一号議案 活動報告

スタートアップコース
社長塾

○開催日

2021年11月30日(火)

○参加者

藤田金属株式会社 近藤様
株式会社ミューラボ 伏見様
株式会社NAKANO 中野様

○実施内容

福島県立医科大学附属病院見学ツアー

講師:福島県立医科大学附属病院

臨床工学センター技師長 出羽 仁 先生

医療機器の購買に関するQA

講師:福島県立医科大学附属病院

経営企画室 野口 紘史 先生 医事課 安藤 愛 先生



○第一号議案 活動報告

スタートアップコース

社長塾

○参加者の声

通常では見学できそうもない場所や手術室の扉の小窓からダビンチで手術を行っている様子を見せていただいたり、開胸をして心臓の手術を行っているのをモニターで見ることでき大変勉強になった。また、物を購入するときの価格による区分けなどは、なかなか聞けないお話であり、@20,000以下のディスポにすると売れるというお話は具体的で大変参考になった。このような機会があればまた是非参加したい。(中野様)

実際の医療機器の貸出や修理等の部屋から、集中治療室・手術室迄幅広く見学させていただいた。出羽技師長から実際の機械を見ながら、価格や機能等のご説明頂けたことで、病院では多種多様な機械が使われていることを実感した。後半の見学後のディスカッションにおいては、機器購入にあたっての実情等(金額に応じて購入迄の手続きの流れが変わること。病院の方と医療機器ディーラーの方々との関係性)等を伺うことができ、理解を深めることができた。(近藤様)

初めに、出羽技師長には大変失礼なのですが、臨床工学技士という職種があるということを知りました。私自身機械いじりが好きで、以前は半導体製造の生産技術を担当していたこともあり、医療機器約2000台の維持管理・修繕を行うことの大変さは想像できた。出羽技師長をはじめ、臨床工学技師の皆様の活動があった上で、病院運営があることを改めて勉強になった。また、心臓冠動脈のバイパス手術を目の当たりして、血管を縫い合わせることの難しさについても大変勉強になった。(伏見様)

○第一号議案 活動報告

スタートアップコース ステップアップコース
メディカルクリエーションふくしま

○開催期間

2021年9月～2022年2月

○協議会林会長より、協議会活動の一環として 出展するよう会員企業に依頼

事業計画で出展企業に対する補助を実施

○出展数

36会員(うち31企業会員 会員企業の37%)

○実績1 マッチング件数(10月～12月)

12会員企業(出展会員企業の39%)でマッチング実績あり

※うち2企業は入会一年未満！！



お客様への訪問	見積の依頼	サンプルのお渡し	仕事の受注(成約)
10件	12件	4件	4件

12会員企業のうち、7企業は5件以上のメッセージおよびアポイントを実施。

○第一号議案 活動報告

○実績2 会員企業のMCF大賞受賞

株式会社朝日ラバー : MCF優秀賞

株式会社ケイ・エス・エム : MCF創生賞

株式会社アリーナ : 明日の医療を切り拓く技術奨励賞

アサダメッシュ株式会社 : 明日の医療を切り拓く技術奨励賞

○出展企業会員一覧

有限会社エスク 株式会社アリーナ 株式会社マイステック 株式会社朝日ラバー
アルファ電子株式会社 株式会社東鋼 神田産業株式会社 株式会社金子製作所
株式会社ケイ・エス・エム 東成イービー東北株式会社 株式会社タスク
有限会社福島熔材工業所 タカラ印刷株式会社 株式会社品川通信計装サービス
京西テクノス株式会社 福島コンピュータ株式会社 エコー電気株式会社 株式会社NAKANO
林精器製造株式会社 株式会社タカナワ 株式会社ニチオン 株式会社アサダメッシュ
富士コンピュータ株式会社 ニーズリンク技研株式会社 日本ピストンリング株式会社
株式会社eロボティクス 有限会社田村精技 北部通信株式会社 T&Hデザイン株式会社
株式会社二光製作所 日本電産コパル株式会社



○第一号議案 活動報告 その他



ふくしま医工連携セッション2021

○開催日 2021年11月27日 ふくしま医療機器開発支援センター

○内 容 手術室に肝胆膵外科ハンズオンツアーの
医師トレーニングを見学 企業ブース展示

○参 加 福島県立医科大 肝胆膵移植外科講座 丸橋主任教授
木村教授

○企 業 アサダメッシュ株式会社 株式会社NAKANO
株式会社ケイ・エス・エム 株式会社川島製作所



○第一号議案 活動報告 その他



各種事業への人員派遣

メディカルクリエーションふくしま

○実行委員会:会長 林 由美子 副会長 高山 慎也

○企画運営部会・学生情報発信部会:渡邊幹事 上野幹事 深澤会員

学生へのアドバイス:高山副会長

○MCF大賞部会:金井幹事

○広報部会:高橋幹事

次世代医療推進プロジェクト推進会議

会長 林 由美子

次世代医療推進プロジェクト企画運営委員会

会長 林 由美子



福島県医療福祉機器産業協議会ガイドブック

1000部作成 3月上旬配布

福島県医療福祉機器産業協議会WEBカタログ

作成中 3月上旬配布

○ 第一号議案 決算報告 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位：円)

収入の合計	3,744,942
支出の合計	1,191,860
差引差額	2,553,082

【収入の部】

(単位：円)

	項目	予算額	実績 (3月末)	備考
1	2020年度繰越金	2,019,916	2,019,916	
2	2021年度会費	1,670,000	1,725,000	企業会員(通年)84会員×20,000円=1,680,000円 (後期)2会員×10,000円= 20,000円 個人会員(通年)5会員×5,000円= 25,000円
3	利息	0	26	預金利子
	収入合計	3,689,916	3,744,942	

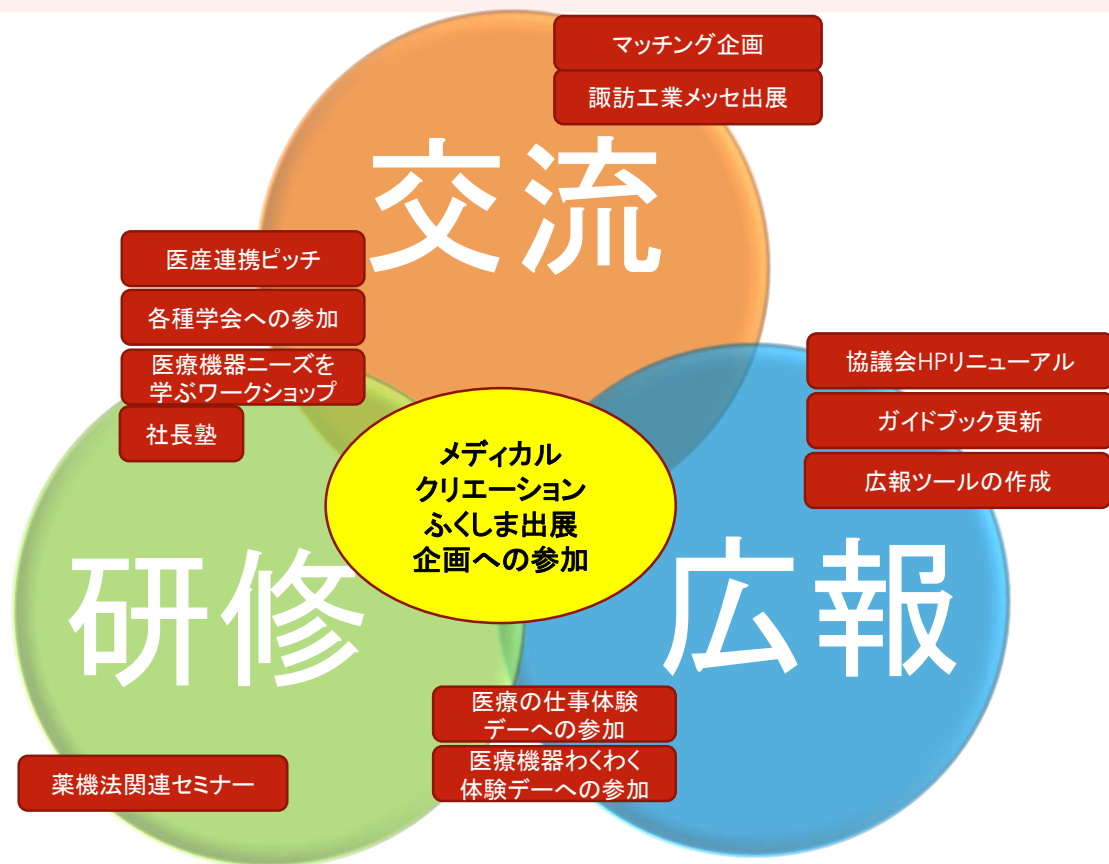
【支出の部】

(単位：円)

	項目	予算額	実績 (4月1日)	備考
1	事業費	1,460,300	868,560	メディアクリ新聞広告宣伝費 49,500円 カタログ印刷製本費 783,200円 カタログ電子ブック化 35,860円
2	負担金	700,000	270,000	メディアクリ出展負担金 (29社分)
3	助成金	1,200,000	50,000	分科会活動助成金 (整形インプラント製品国産化研究分科会)
4	雑費	150,000	3,300	振込手数料
	支出合計合計	3,510,300	1,191,860	

○ 第二号議案 2022年度事業計画

● 協議会の会員活動の充実に向けて強化すべき3つの分野



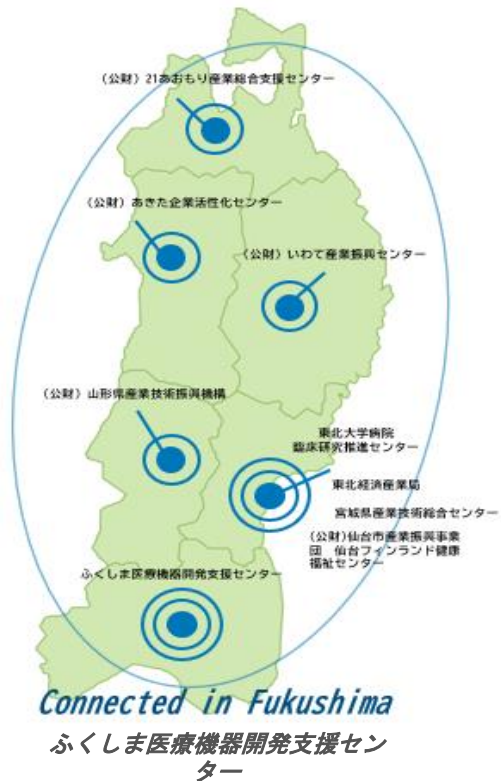
ふくしま医療機器開発支援センター 2022年度受託事業

~ Connected in Fukushima ~ (福島がつなぐ)

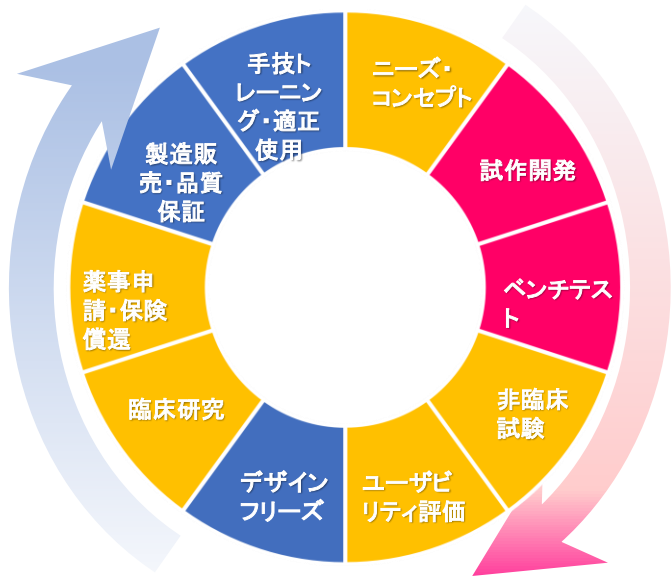


メディカルクリエイションふくしま	●	●		●				●
福島県医療福祉機器産業協議会運営事業	●	●		●			●	
地域連携型医療関連ビジネス創出支援事業	●	●	●	●		●	●	
ASEAN販路拡大事業		●	●					●
ふくしま医療関連産業人材育成事業		●	●					
Step by Step Support事業(自主事業)		●	●	●		●	●	●
課題解決型医療福祉機器等開発推進事業		●		●				●
医療機器重点分野等開発促進事業			●	●	●			●
安全管理者・品質保証担当者人材育成事業			●			●		
浜通り地域等医療・福祉機器導入モデル事業				●	●			
医療施設用・介護支援ロボット事業					●			●
医療機器産業新たな「しごと」創出支援事業				●	●			

【AMED事業】 医工連携イノベーション推進事業(地域連携拠点自立化推進事業)
【採択期間】 2021年8月31日～2023年3月31日
【テーマ】 ふくしま医療機器開発支援センターを活用した東北地域広域連携拠点自立化に向けた研究



- ①東北地方全体の関係者のネットワーク充実
- ②センター機能をフル活用した「医療機器開発」のエコシステム形成
- ③面での広がりを意識した拠点づくり



医療機器開発のエコシステム
 より早く、より確実に！

○ 第二号議案 2022年度事業計画 案

★ 協議会事業計画案

○メディカルクリエーションふくしまへの参加
2022年10月27日・28日
協議会会員出展補助・実行委員としての協力

○社長塾(担当者向け勉強会)
福島県立医科大学附属病院の見学
や担当者とのディスカッション

○ブランド化に向けたホームページ
のリニューアル
医療機器メーカーへの
積極的な情報発信

○メディクリ連携企画
創生アイデアコンテスト
学生対象ハンズオンツアー
「協議会賞」の提供・アイデアの具体化支援

○医産連携ピッチ
自社製品の開発や販路拡大に向け
た医師との意見交換

○ガイドブックの更新
センターを利用するメーカーへ配布
マッチングツールとしての活用

○他地域(諏訪工業メッセ等)への出展
2022年10月13日～15日
2.5メートル×2ブースを確保

○薬機法関連セミナー
改正QMS省令の重要ポイントと
社内体制の構築

○パネル等広報ツールの作成
○ロゴマークの作成
学会等の展示用に作成

○医療機器メーカーとのマッチング企画
メディカルクリエーションふくしま出展メーカー
とのマッチング企画

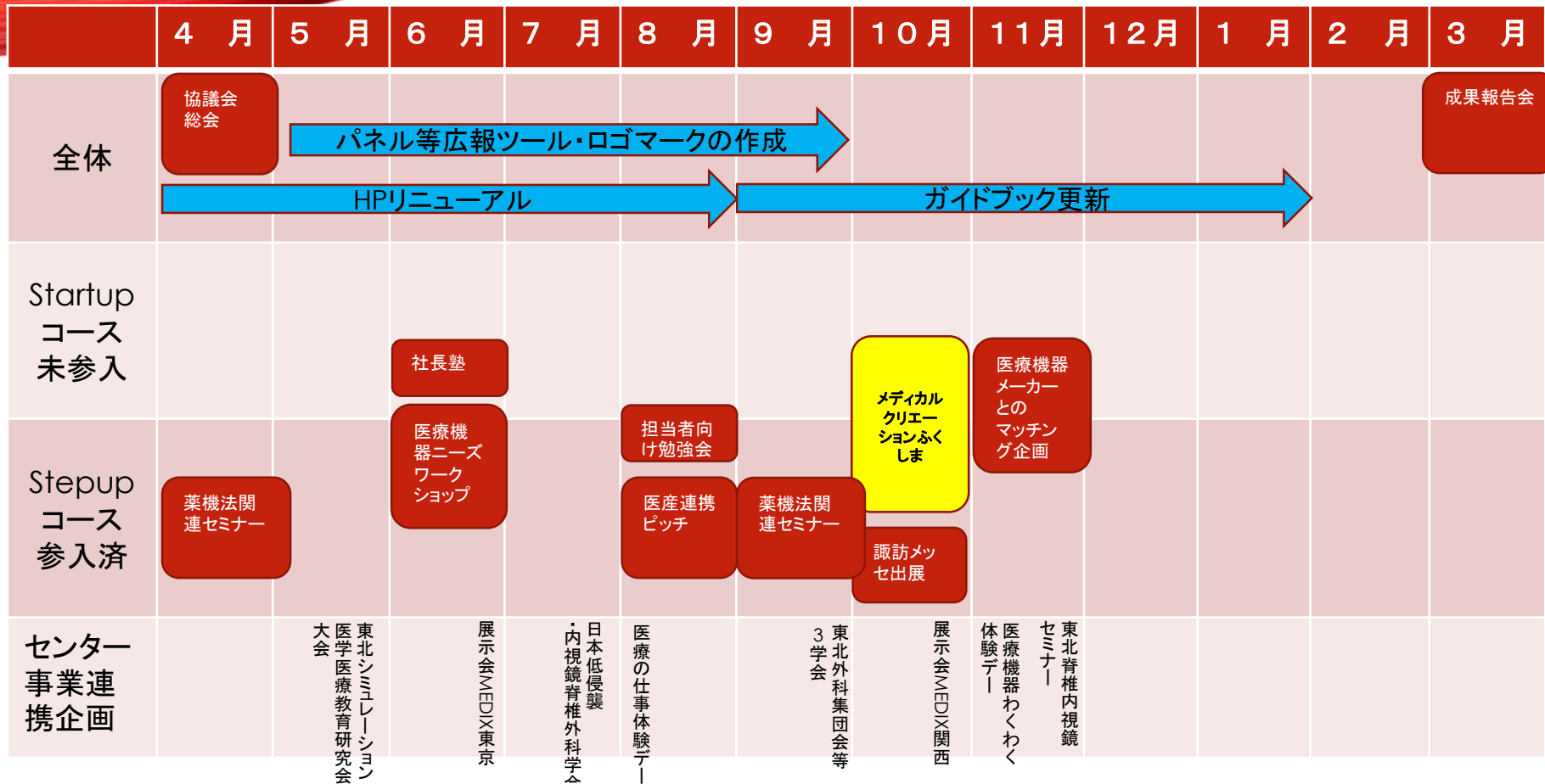
○医療機器ニーズの発掘方法を
学ぶワークショップ
臨床工学技士などから現場の困り
ごとをヒアリングしアイデアにつなぐ

○各種学会への参加
協議会会員企業のプロモーション

○センター事業連携企画
医療の仕事体験デー(高校生)への参加
協議会会員の出展・就職支援など

○センター事業連携企画
医療機器わくわく体験デー(小中学生)への参加
協議会会員の出展・次世代育成

(1) 2022年度事業計画 年間スケジュール



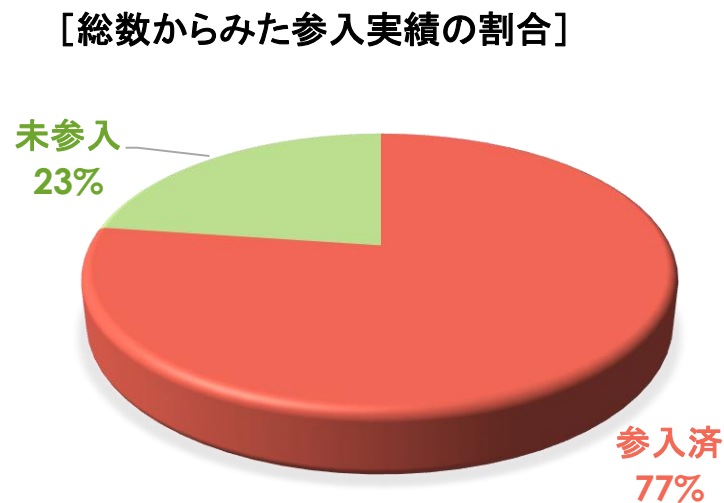
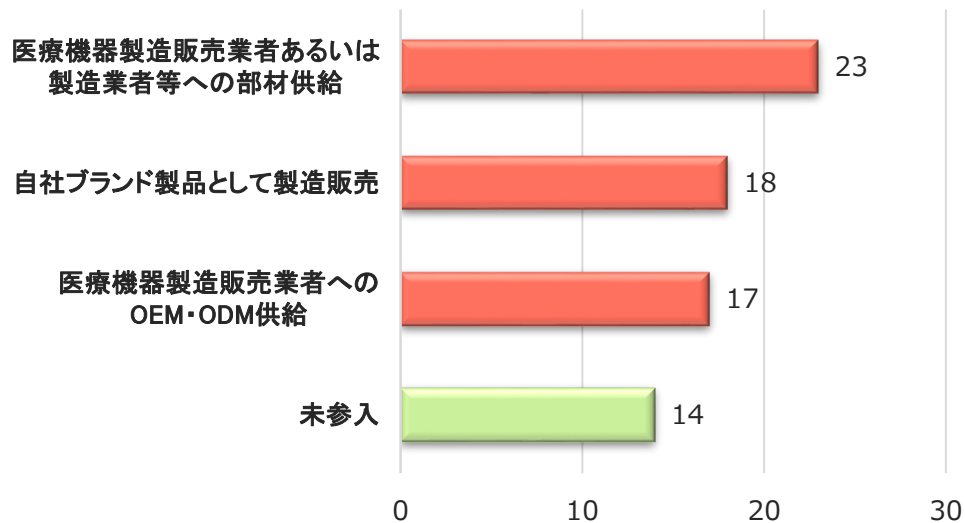
○ 第二号議案 2022年度事業計画 予算案

科目	項目	金額	備考
年会費	会員年会費	1,720,000	企業会員:20,000円×85 個人会員:5,000円×4
繰越金	2021年度繰越金	2,553,082	
	収入合計	4,273,082	
科目	項目	金額	備考
事業費	ガイド・パネル作成費用	800,000	ガイド・協議会パネル作成
	ホームページ	500,000	協議会会員専用サイトの改修
	講師謝金	250,000	50,000円×5人
	学会協賛費用	600,000	100,000円×6学会
	施設利用	100,000	幹事会・協議会・外部施設使用料
負担金	メディアクリ出展費用	900,000	15,000円×60社
助成金	分科会経費助成	500,000	100,000円×5+申請にて別途助成
雑費	雑費	250,000	ロゴマーク作成。手数料等
活動調整費	活動調整費	373,082	
	支出合計	4,273,082	

参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

○医療機器業界への参入の状況について
※商談中、開発中の案件を含む(複数回答)

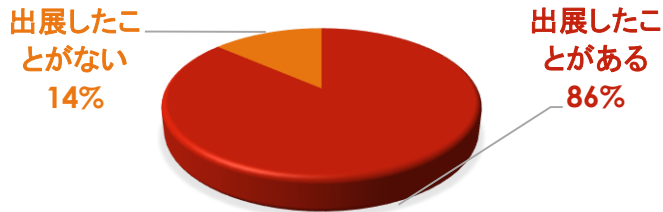


参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

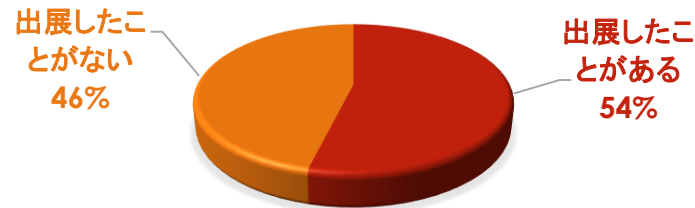
※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

a. メディカルクリエーションふくしまへの参加状況について

参入済企業 44件



未参入企業 13件



出展したことがない理由：

- ・ 現在医療機器メーカーへの部材納入を目指している段階であり、具体製品例がない。
- ・ タイミングが合わない。
- ・ 商圏が見込めない。
- ・ 製販企業のため、製造先探索をメインとしているため。
- ・ 今年度のメディカルクリエーションのお知らせをきっかけに、協議会に参加したため（それまで、認知していなかったため）
- ・ 出展する製品を持ち得ていない。

出展したことがない理由：

- ・ 医療機器開発に携わった実績が無いため。
- ・ 出展に適合する製品技術を調査している。
- ・ 参加への調整が困難。
- ・ 販売業のため。
- ・ まだ検討段階で方向性を決めかねている。
- ・ 出展出来る様な製品出ない為。

参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

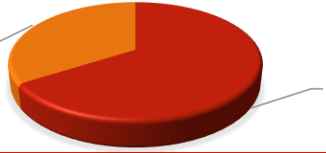
※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

b. アイデアコンテストの内容に興味関心はあるか

参入済企業 44件

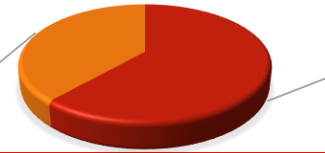
未参入企業 13件

興味はない
34%



興味がある
66%

興味はない
38%



興味がある
62%

c. 協議会としてメディカルクリエーションふくしまで実施してほしい企画

・福島県内及び、協議会にはさまざまな医療機器に携わる製造業の企業も多く所属していると思うので、メディカルクリエーションふくしまで一般の方々向けに医療機器製造という業態について分かりやすい動画やコンテンツを配信し、企業の周知活動や人材雇用に向けた企画を検討して頂きたい。

- ・今後の医療についての展開の会談等。
- ・例えば医療機器向材料(樹脂材料etc.)メーカーなど関連企業の見学会。
- ・出展企業同士のマッチング。
- ・医療機器メーカーの開発部、資材部などとのマッチング。
- ・マッチング事業。
- ・医療機器メーカーとの個別マッチング、面談によるプレゼンの場。
- ・①出口企業や大学・研究機関が求める要求ならびに抱える課題を明示していただき、それに興味や機会を有する企業様とのマッチングする場の提供②医療商社が求める要求や抱える課題や明示していただき、それに興味や機会を有する企業様とのマッチングする場の提供③補助事業相談会(出し方・書き方の手ほどき付き)④展示会などの集客できる場面の紹介⑤多くの企業が参加・発表する企業説明会⑥学校とWEBでつないで、生徒様と企業との親交を深める交流会⑦医療現場・医療機器が求めるDX(デジタル化+気づき)⑧経産省・厚労省・大手企業からの発信「今は輸入品であるが、いずれ国内での生産が望まれる製品・部品の紹介」⑨医療とロボット化(講演かな)

・国産医療機器の事業化が成果を上げられない理由に関し、立場の違うパネラーによる課題ごとの公開ディスカッション。

- ・医療機器メーカー様が困っている案件等のディスカッション。
- ・医療従事者困りごとのレクチャー。
- ・OEM ODM の開発事例紹介。
- ・生物安全性試験の項目別解説及び試験機関&金額等についてのセミナー。

・オンラインだけではなく、是非また会場で開催できる日を楽しみにしている。

- ・今年度の企画内容で良い様に思う。
- ・医療器に参入したい企業様と協業できる環境、協業を申し込みできる集まりを作っていただきたい。
- ・医療分野での製造、販売、物流など。
- ・最先端機器類の展示と実演。
- ・企業間のマッチング企画(例:以前のモーニング交流会)
- ・発注企業と受注企業の商談会の実施。

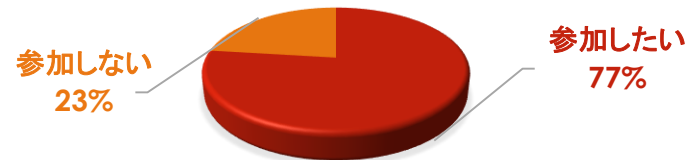
参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

d. 「社長塾」について次年度参加の意向

参入済企業 44件

未参入企業 13件



参加しない理由、またはそれに代わるアイデア：

- ・病院のニーズを具体的に形にする場合、ものづくり企業一社で対応することは困難。製造販売業様がまとめ役になって頂き数社のものづくり企業を使って頂く形が無ければ病院で必要とされる製品開発は難しいと思う。
- ・医療Modelの参入には、収益を見込む高いハードルがあるので。
- ・プラスチック材料が入手困難で、加工が出来ず先行きが不透明なため。
- ・対象が眼に関するものであり範囲が狭いため。（アイデアとしては、このような医療機器があれば使いたいという、実際に医療機器を使用する現場からの声をまとめてプレゼンして頂きたい）
- ・本音会（福島県の医療機器産業をブランド化するための実行委員会を立ち上げるための参加企業による意見交換会を年間3回くらい実施する）
- ・経営層でなくても参加可能でしたら検討させていただく。
- ・対象者が経営層ではない形が参加しやすく業務にフィードバックしやすい。
- ・医療機器参入企業への工場見学、企業間マッチング。
- ・製造販売業者・医療機器ベンチャー企業とのマッチング企画。
- ・限定で福島県立医大の出羽先生の講義を聞きたい。

参加しない理由、またはそれに代わるアイデア：

- ・タイミングにより参加できるか不明なため。
- ・現時点では、既存客先の対応で手一杯な為。

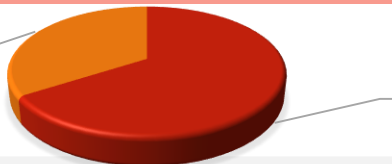
参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

e. 「医産連携ピッチ」について次年度参加の意向

参入済企業 44件

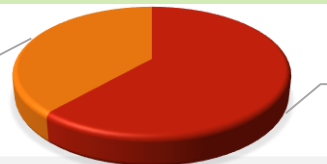
参加しない
34%



参加したい
66%

未参入企業 13件

参加しない
38%



参加したい
62%

参加しない理由、またはそれに代わるアイデア：

- ・ 当社の製品は医療機器向け部材であり、完成品は手掛けていない為。
- ・ 医師が欲しい機器が、必ずしも企業の利益になる機器では無いものが多い為。
- ・ 現在販路がありOEM製品のため。
- ・ 素材メーカーのため。医療機器メーカーまたは、医療機器部材メーカーと連携できている状態であれば、参加する価値は高いと感じている。
- ・ 医療機器の製造販売にまだ至っていないため。
- ・ プラスチック材料が入手困難で、加工が出来ず、先行きが不透明なため。
- ・ 従事者にPRするのは重要な事だが、数年やってきてOKでもディーラー様、又、県が変われば上記は皆無。という印象が強い。福島県の中小企業の方々は完成品ではなく、部品製造業の方々が多くを占める為、製造量拡大の為に大手医療機器メーカー向けに車両業界の様に製品や部品の展示入札会の様な企画をお願いしたい（医療機器 部材供給のランニングチェーンは難しいのは承知しておりますので、そういったメーカーの購買向けに、こういう技術とコストで提案が可能。という場を設けて頂きたい）
- ・ 製品が承認となりましたが、コロナによってほぼ活動出来ていない状況。まずは、実際に現場での活動がスタートという。
- ・ 自社で医療機器等を生産されている企業は良いと思う。構成部品を製作しているメーカーや、製造技術をアピールしたいメーカーは本ディスプレイは向かないと思う。
- ・ 弊社が主体的に開発した医療製品に関わり、遠隔患者からの医療情報取得に関して、ご意見をお伺いしたい。

参加しない理由、またはそれに代わるアイデア：

- ・ 自社製品としての販売実績が無い為。
- ・ ピッチでPRできる製品・サービスがないため。
- ・ 現時点では具体的なアイデアが無いため。
- ・ 現時点では、既存客先の対応で手一杯な為。

参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果 ※回答数57 3/8現在 回答率69.5%

f. 「協議会だより」の他に配信してほしい内容

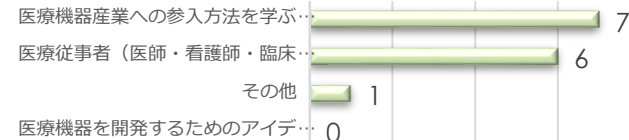
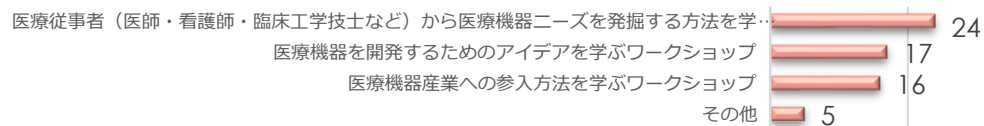
参加済企業 44件

- ・医療機器の法令変更情報。
- ・協議会からの情報発信が多すぎて、今回も会員企業ガイドブック掲載申し込み情報をスルーしてしまった。情報に重要度をレベル分けして発信頂きたい。
- ・薬事法等の改訂情報。
- ・医療現場、医療機器メーカー等のニーズ。
- ・医大で行われている研究開発の動向。
- ・企業紹介の充実。
- ・国内外医療市場や成長性データ、新しい治療方法や治療器具情報。
- ・医療業界のトピック。

未参加企業 13件

- ・医療福祉機器産業の業界動向セミナー。
- ・機構の職員紹介。

g. 次年度、協議会としてワークショップを実施する場合に希望するテーマ（複数回答）



その他：

- ・製造販売業を取得されているメーカー様が抱えるニーズを聞きたい。
- ・現段階は部材供給がメインであり、参加は今後と考えている。
- ・やる気のある企業とのマッチング。
- ・ブランド化について。
- ・販売（売上げ）アップへの方策

その他：

- ・販売業者とのワークショップ。

参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

h.協議会としてマッチングを実施する場合、どの企業とのマッチングを希望するか

参入済企業 44件	未参入企業 13件
<ul style="list-style-type: none">・福島近郊の医療機器製品製造メーカー。・空調・防爆フィルター・医療用ウエア。・ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ。・各種医療機器メーカーが揃っていればWebによる商談会を希望。・グラクソ・スミスクライン。・①テルモ社・ニプロ社・朝日インテック社・オリンパス社などのメーカー②協議会メンバー間のマッチング（顔合わせ）・オリンパス、キャノン、テルモ、ニプロ。・認知症検知、予防、進行遅延に関わる医療機器企業。・国内で鋼製機器を製造している企業。・医療機器メーカー。	<ul style="list-style-type: none">・「電子部品採用の医療機器」製造メーカー（現時点で特定の企業＝メーカーはない）・マッチングを希望する企業と、どんな技術を探しているかを知りたい。・サンセイ医機。

参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

i.協議会にどのような活動を望むか-1

参入済企業 44件

- ・福島県や近隣郡山市の医療従事者ではない方々との連携やそういった方々へのPRや周知活動。
- ・医療従事者・製造販売業取得メーカー・ものづくり企業3社で取り組む医療機器開発。
- ・昨年8月に開発支援センターにて実施された医療のしごとデーや、高校生向けオンラインインターシップは非常に良い取り組みだと思ふ。現在製造業は学生の就職先としては敬遠される傾向にあり、大学・高校に募集をかけてもなかなか応募が少ないのが実情である。そこで、学生に県内医療機器に関わる企業を紹介する機会を設けてもらい、福島県内に就職してもらう取り組みをお願いしたい。
- ・①手技分科会予算をアップして欲しい(30万円→50万円へ)②企業見学会の開催③他地方・他県の医療関連協議会や企業との交流会④理化研や産総研などの技術紹介。
- ・素材・部材メーカーとして協力させていただきたい。
- ・カーボンニュートラルや環境をワードにした企業が取組む活動。
- ・鋼製器械を製造販売している企業の製造部門を見学したい。医療機器の区分けというか、業界地図のような勉強会があるとよい。
- ・実際に直接お会いしてつながりを持ちたい。
- ・コロナ禍でも行える情報共有・企業交流と業界情報の取得。
- ・協議会企業との連携強化。
- ・展示会、商談会の開催。
- ・医療機器メーカーとのODM或いは医療機器製造業のビジネスマッチング。
- ・引き続き開発ニーズの提供とビジネスマッチング、海外進出及び展示会等での支援をお願いしたい。
- ・高齢者に役立つ、必要とする。必要とされるもの、簡易的なものは何かと、医療分野も一家一台になる製品群は何か、企業側としての安定生産と社会に貢献出来るものは何かを検索しながら、ニーズを発掘したい。
- ・医療機器となると開発スパンが長いので、ヘルスケア製品等もう少しハードルが低い製品開発も検討したいと考えている。そのあたりのニーズについても情報収集できるような機会が欲しい。

参考：2022年度事業計画 アンケート調査結果

※回答数57 3/8現在
回答率69.5%

i. 協議会にどのような活動を望むか-2

未参入企業 13件

- ・マッチングを希望する企業と、どんな技術を探しているかを知る事が出来る情報コーナーの作成を希望。医療器のすべてをを日本の企業の力で100%作れる方法を探せる場、参入できる場を、零細企業でも、参加できる情報を得ることが出来る、情報を提供して戴きたい。
- ・直接の活動ではないが、年間スケジュール等大まかな活動の年間計画や時期未定でもイベントの企画予定があると助かる。
- ・会員企業様一同が集まって、話し合いをする事。

(県から)

- ・協議会ホームページを充実させる。(全体的に見にくい。見やすいホームページへの改良。会員企業紹介ページの強化。動画の掲載や、各企業がリアルタイムで情報を更新できる仕様への変更。・会員企業の事業化案件の紹介、マッチングの成果紹介など掲載。・協議会活動の実績、分科会の成果を詳細に掲載。)
- ・会員企業同士の交流を盛んに行う。(センターや県内各方部にて、顔を合わせた交流会の実施。気軽に意見交換、情報共有できる場の提供。幹事企業による講演。(協議会に入会して良かったこと、これまでの成果など発表。))
- ・医療機器メーカー向けピッチ(医療機器メーカー購買担当者からのニーズ、取引要件等の情報提供、ディスカッション)
- ・他県先進中小企業の現場見学、意見交換(次世代を担う子どもたち、若者に医療関連産業への興味・関心を持ってもらい、また、会員企業の若手社員のスキルアップを図る人材育成事業を協議会として取り組み、県事業等に積極的に関与してはいかがか。・少子化や若年層の県外流出が続く中、企業にとって人材の確保・育成は大きな課題。令和3年度も、協議会を通じて会員企業に呼びかけ、県の人材育成事業に協力をいただいていたところ。(高校生対象の医療のしごと体験デーへの出展(7社)、人材育成事業に関する県アンケートへの協力、メディクリ「創生アイデアコンテスト」への協力、オンラインインターンシップ(県事業)への協力(7社)、医療機器開発支援センター開所5周年イベントへの協賛、ほか)・人材の確保(採用)や育成は会員企業共通の課題であり、協議会の事業として取り組んでみてはどうか。(令和3年度のような関わりを協議会事業として位置付け、県事業への共催、協賛等を行う。協議会、センター(機構)、県が三位一体となって事業に取り組む。)社会貢献的な活動の側面もあり、メディアへの露出も多くなることから、協議会の活動を広くPRする効果が期待できる。イベントのノベルティやコンテストへの賞品(楯、トロフィー等)提供など、予算を組む必要があれば、「人材育成事業分科会」を新たに設置して機動的に活動することも検討する。(県〔医療関連産業集積推進室〕が分科会代表になることも想定。)